

# 将来世代の視点（フューチャーデザイン）

本資料は、2022年秋の財政制度等審議会の審議において紹介され、建議にも盛り込まれた「フューチャーデザイン」の取り組みの実践に向けた資料です。

フューチャーデザインとは、様々な課題に対し、現役世代だけでなく、その課題の影響が及ぶ将来世代の立場も踏まえて議論しようという取り組みであり、例えば、参加者が将来世代役の立場に立って議論を行うことなどが考えられます。

今後、財政に限らず、持続可能な社会を考えていく上での政策的課題について、フューチャーデザインの考え方を活用した議論が、次の時代を担う若年世代を含めた社会各層で行われ、当事者としての関心が高まっていく一助になればと考え、そのためのたたき台として、本資料を作成しました。

本資料は、財政制度等審議会の委員である小林慶一郎委員のほか、フューチャーデザインを研究されている高知工科大学の西條辰義特任教授・中川善典教授らと議論を重ねながら作成したものであり、今後も広くご意見を伺いながら、リバイスしていきたいと考えています。

2023年2月17日

より良い未来のために、今できることを考えよう

(試作版)

# 未来視点で考えてみよう

- 私達は様々な問題について、どのように対応するか話し合っています。例えば、社会保障の在り方、財政、環境問題など。
- その対応方法を取ることによる影響は、私達だけでなく、将来生きる人々にも及びます。しかし、将来の人々は、今現在の話し合いには参加することができません。

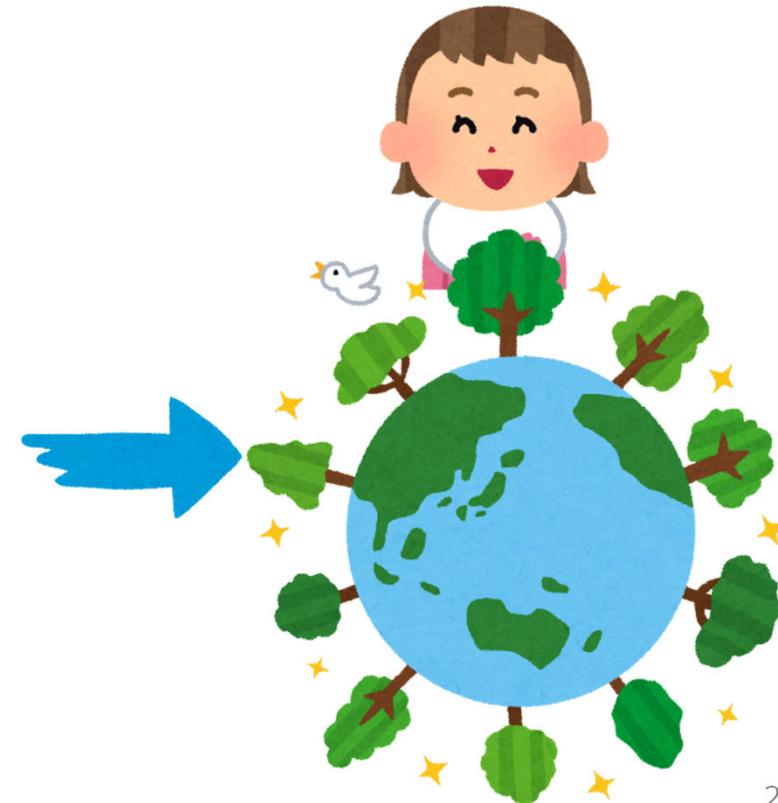
将来世代



今生きている私たち



将来世代



# 未来視点で考えてみよう

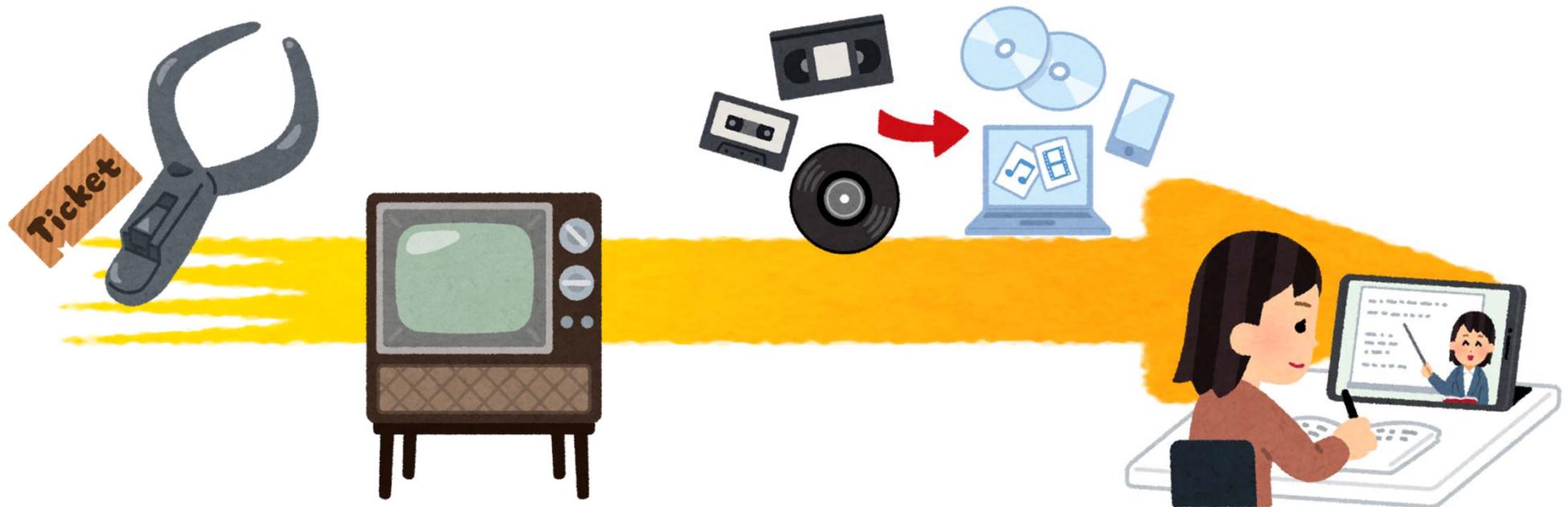
- 将来の人々の意見を現在の選択に反映させるために、未来にタイムスリップしたつもりで、将来世代が生きる社会をクリエイティブに想像し、その実現のために現在の私達がどうすれば良いか提言を送ってみましょう。
- 将来の人々のためになることをしたい、という気持ちを持って物事を決めると、私たちの社会は持続可能なものになっていきます。



## 2023年から1970年への提言

未来にタイムスリップしたつもりで現在の私たちの行動について提言を送るとしても、  
例えば50年後の日本や世界はどれくらい変わっているのでしょうか？  
どんな風に提言をすれば良いのでしょうか？

その感覚をつかむために、まずは現在から過去の人達に向けて同じように提言をしてみましょう



# 未来視点で考えてみよう（現在→過去）

## 1970年代の日本・世界の様子を振り返ろう

### 人口構造、出生率

- 第二次ベビーブーム（71～74年）
- 総人口は1億1千万人を突破
- 合計特殊出生率は71年に2.16、79年には1.77に低下。少子化が始まる
- 1975年の高齢化率は約8%

### 働き方

- 土曜日は半日仕事
- 物価上昇以上に給与が上昇
- 70年代前半は専業主婦率が戦後最も高く、後半から女性の社会進出が進み始める

### 生活

- 3C（カラーテレビ・クーラー・車）の普及
- スーパーマーケットの普及、コンビニ誕生
- 生活程度を下・中の下と感じる人が減り、中程度の層が増加

### 経済・為替

- 高度経済成長（～73年）
- 大量消費、大量廃棄が定着
- 73年にドル/円が変動相場に移行。71年の1ドル360円（固定相場）から、78年には180円前後まで円高が進み、輸出利益が減少
- 第一次石油ショックでトイレトペーパーの買い占め等が発生
- 日本列島改造政策による土地投機と第一次石油ショックにより、激しいインフレ発生、74年はマイナス成長に
- 70年代後半は安定成長に移行（成長率4～5%）

### 政策

- 70歳以上の老人医療無料化。医療費の急増、待合室のサロン化等の弊害
- 日本列島改造政策の推進、後退（日本列島を高速道路・新幹線などの交通網で結び、地方の工業化を促進し、日本列島の均衡ある発展と地域格差解消を図る）

### 環境

- 経済成長に伴い水・大気の汚染が進み、公害が社会問題に。法規制が進み始める
- 環境庁が発足
- 最高気温35度以上の猛暑日は70年代平均で年間0.9日（2013～2022年平均は年間3.4日に増加）

### 財政

- 74年のマイナス成長を受け税収が落ち込む中、福祉の充実や社会資本整備の促進のため歳出が増加
- 75年以降、赤字国債の発行が常態化
- 諸外国による内需拡大要請もあり、積極財政を行い国債発行が急増

### アメリカ・ソ連・中国

- アメリカは景気低迷・インフレに苦しむ
- 米ソは冷戦下だがデタント（緊張緩和）で核兵器の軍備を制限
- 中国は社会主義経済から市場経済体制へ移行、改革開放が始まる

# 未来視点で考えてみよう（現在→過去）

## 2023年から1970年への提言

〇〇という政策によって、日本は▲▲という問題が起こってしまった。〇〇をやめるか、●●という対策を同時に進めることで、この問題は避けられるのではないか。

1970年に〇〇に力を入れたおかげで、将来▲▲がなくても社会の役に立った。もっと●●したらより効果が出るだろう。

当時、医療や年金などの社会保障で、主に高齢者に配慮した政策がとられていたが、現在では、少子高齢化による若者の負担増加や、社会保障費の増加による財政悪化が問題となっている。

例1 高齢化社会の本格到来に先駆け、しっかりとしたユニバーサルな社会保障制度を作ったおかげで、安心して生きていける社会になった。

例2 当時から、少子化対策を進めたり、社会保障にかかる負担を将来に先送りしないような仕組みを考えるべきだった。

第一次石油ショックによる混乱の後、日本は石油の安定的な生産や備蓄、省エネ化や石油に替わるエネルギーの開発に力を入れた。

例1 そのおかげで、第二次石油ショックでは混乱が抑えられ、比較的短期間で回復することができた。

例2 当時から、再生エネルギーの推進などで石油への依存をもっと軽減しておけば、近頃の原油高騰の影響も抑えられただろうし、温暖化対策の意味でも良かっただろう。

皆さんも過去の人達に  
提言を送ってみましょう！



今だから言える後出しじゃんけん  
でも、遠慮はいりません！

# 未来を想像してみよう

2070年にタイムスリップして、生活や社会を自由に想像してみましよう  
また、なぜそうなるのか、理由も一緒に考えましよう

## 例 1

### 少子化が改善し、皆が豊かになった！

- AIやロボットによる仕事の代替が進んだことで、人間の労働時間は減った一方、給料は増えた
- 性別を問わず、育休を取っても、キャリアに不利になることはなくなった
- リモートワークが普通になり、働き方・住環境が良くなった
- 子育て支援や教育サービスが充実した

将来



## 例 2

### 人手不足と財政悪化が深刻になり、 医療・介護サービスは高額な贅沢品に

- 少子化に歯止めがかからなかった
- 重い負担を悲観した若い世代が海外へ移住してしまった
- 日本経済は世界から置いてきぼりに
- 支え手の減少による財政悪化で社会保障制度が破綻し、医療費や介護費の負担が高額になってしまった

上記は一例です。  
現在世代への提言に繋がるよう、皆さんの具体的なアイデアでもっと膨らませて下さい。

自由に想像してみてください！



# 未来を想像してみよう

- 未来像は自由に想像して良いですが、想像のヒントとして、いくつか現状の姿や未来予測を示します。
- 予測通りに進む未来も、何かしらの改善策や出来事により予測とは違った未来になることもあり得ます。

## 人口

- 2065年には、日本の総人口は約8,800万人（現在の7割）に、特に働く世代は約4,200万人（現在の6割）に減少する一方、高齢者は約3,400万人で現在とそれほど変わらないと予測されています。
- 先進国では一般的に少子化傾向が進みますが、出生率が回復する国も見られます。

（出所）総務省「人口推計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年4月推計）」  
（出生中位・死亡中位家庭）、内閣府「選択する未来」

## 地方

- 地方から大都市への人口移動が収まらない場合、2040年には、約1,800自治体のうち、523自治体が「消滅可能性（※）」が高く、人口移動が収まる場合でも、243自治体が「消滅可能性（※）」が高いと予測されています。 ※20～39歳の女性人口が5割以上減少し、人口規模が1万人未満となること。
- 最近ではテレワークの普及を機に地方移住への関心が高まっています。

（出所）内閣府「目指すべき日本の未来の姿について」（「選択する未来」委員会会議資料）、  
「選択する未来2.0」報告参考資料

## 格差

- 日本の相対的貧困率（世帯の所得が、その国の中央値の半分に満たない状態の割合）は先進国35か国中7番目に高いです。（2017年調査）
- 親世代から子世代へと格差が固定化すると、未来に希望の持てない若者が増加したり、能力が十分に発揮されないという社会的な損失につながります。

（出所）OECD経済審査報告書（2017）、  
内閣府「目指すべき日本の未来の姿について」（「選択する未来」委員会会議資料）

## 気候変動

- 現在を超える追加的な対策を取らない場合、21世紀末には以下のような影響が予測されます。
  - 日本の年平均気温が4.5℃上昇し、猛暑日が19日間増加します。
  - 豪雨や台風の発生頻度が増加し、強さも増します。
  - 海面が約0.7メートル上昇し、沿岸部の浸水被害が増加します。
- 日本は、2050年までにカーボンニュートラル（温室効果ガスの排出実質ゼロ）の実現を目指しています。

（出所）文部科学省・気象庁「日本の気候変動2020」

## 経済・財政

- 2075年まで日本の平均成長率は0%台のままとなり、GDPは2050年に世界第6位、2075年に第12位まで後退するという予測があります。（中国・インド・米国の7分の1程度）
- 今のままだと、社会保障費が増大する中で、適切な負担がなされず、財政・社会保障制度の持続可能性への懸念が高まります。

（出所）ゴールドマン・サックス「2075年への道 世界の成長鈍化も収れんは続く」、  
内閣府「目指すべき日本の未来の姿について」（「選択する未来」委員会会議資料）

## 技術革新

- 2050年までに、以下のような研究が進みます。
  - アバターを活用し、人が身体、脳、空間、時間の制約から解放された社会を実現する研究
  - 人と同等以上の身体能力を持ち、自ら思考・行動し成長するAIロボットを開発する研究
  - 超早期に疾患の予測・予防ができる社会を実現する研究

（出所）内閣府 ムーンショット目標



# 今、私たちは何をすべきか

## 2070年から2023年への提言

### グループで考えてみましょう

- 考えた提言や、どんな未来像が見えたのかを、グループで共有してみましょう。
- そのアイデアを実現しようとするとき、現在の世代から、何かネックや懸念点、反対意見が出てきそうな提言はありましたか？
- もし反対意見が出てきそうなら、現在世代の立場と、タイムスリップして未来を見た人の立場に分かれて、議論してみましょう。
  - ➡ 現在世代だけでその問題について話し合う場合と、議論の結果が異なるかもしれません。

# まとめ

## ◆ 未来を想像し、そこに生きる人たちの立場になってみることで、将来にわたって持続可能な選択を意識しやすくなります

- 自分の子どもや孫のためになることなら、自分が我慢してでも、やってあげたい、と思うことがあります。こうした気持ちが、親と子の間だけではなく、現世代を将来世代との間にも成り立つとき、すなわち、現世代が将来世代のためなら喜んで我慢をしたいという気持ちを持つとき、現世代は「将来可能性」を持つと定義されています。
- 将来世代が生きる社会をクリエイティブに想像する経験を経ると、その実現のために頑張りたいと思い、将来可能性が発揮されることが分かってきました。
- 社会の仕組みが変われば、私たちの将来可能性が発揮され、「社会がどのようになるのが良いか」に関する私たちの選好も（もしかしたら価値観さえも）変わるでしょう。…私たちの社会は持続可能なものになっていくことが期待できます。

(高知工科大学フューチャー・デザイン研究所HPより)

## ◆ 未来像を自由に想像することによって、「現在抱えている課題を解決する」という考え方ではなく、斬新でイノベーターなアイデアが生まれることがあります

# 参 考

- フューチャーデザインとは、将来世代は現在の政策決定に意思を反映できないという問題意識に立ち、現世代が将来可能性（将来世代の利益のための思考・行動）を発揮できる社会の仕組みをデザインすること。
- その有力な手法の一つが「仮想将来世代」という役割の設定であり、仮想将来世代を含むグループは持続可能性の高い選択をする傾向が強まることが報告されている。

## フューチャーデザインとは

人々が将来可能性を発揮できる社会の仕組みのデザインと、その実践

※将来可能性：「現在世代が自分の利益を差し置いても、将来世代の利益を優先するという可能性」

## 手法

現在世代と仮想将来世代が交渉や合意形成を行い、世代間利害対立の解消や利害調整を進めることで、将来世代の利益も踏まえた意思決定を行う。



- 仮想将来世代になるための未来予測や、将来から現在を振り返る視点を持つワークが効果的
- 将来世代になりきり、いかなる状況に置かれているか、その解決のために現在世代に何が必要か、などを議論する
- 仮想将来世代グループと現代世代グループに分かれて議論することも有効

## 効果

- 仮想将来世代を含むグループでは、持続可能性の高い選択をする傾向が強まることが報告されている。また、現代世代は、現状の課題や満たされていないニーズから議論が展開されるが、仮想将来世代は、将来の社会状況を予想し、長所伸長型・バックカスティング型の思考も見られる。
- ミクロのレベルで具体例を交えてのPDCAサイクルの実施（漸進的改革）と、マクロのレベルで将来の視点を交えてのフューチャーデザイン（バックカスティング的考察）を組み合わせることでバランスの取れた将来像を得ることができるのではないかと。また、各層にアクティブラーニングとして参加してもらうことで、財政について当事者としての関心が高まるのではないかと。

## 行政での活用事例

- 岩手県矢巾町では老朽水道施設の更新にあたり、水道料金の値上げが必要な状況であったが、当初、住民は水道料金の値下げを主張する一方で水道の安全性や美味しさも要求し、非協力行動を選択。
- 住民参加によるビジョン策定の仕組みの中で、水道事業の在り方を判断するに足りる情報の提供、行政側と住民側の双方向コミュニケーションを図った結果、参加者のニーズの優先順位は「安全性」と「老朽管更新」になり、値下げという私的利益ではなく公共の利益が選択された。
- 「2060年の矢巾町にタイムスリップした」という設定の仮想将来世代グループは、今後の老朽管の更新のために水道料金を値上げすべきだと住民自ら提案し、矢巾町では実際に水道料金の値上げを実施することになった。

## 歴史の始まりー壊滅的リスクの時代を生き抜くには (抜粋)

ウィリアム・マッカスキル オックスフォード大学准教授 (哲学)

この1世紀におけるもっとも厄介な出来事は、人類が自らを滅亡させる力をもつようになったことだ。気候変動から核戦争、人為的に操作された病原体によるパンデミック、制御不能な人工知能(AI)、まだ登場していない破壊的なテクノロジーにいたるまで、人類を破滅へと向かわせかねない危険はいまや数多く存在する。つまり、現代に生きるわれわれは、自分たちや子どもたちの命だけでなく、これから生まれてくるすべての人の存在そのものを左右する無謀な賭けをしていることになる。賢明に判断して行動すれば、来るべき世紀は、「未来に向けてわれわれがいかなる責務を負っているか」の認識によって形作られ、われわれの孫の孫たちは感謝と誇りをもって私たちの行動を振り返ることになるだろう。だが私たちが判断を間違えれば、彼らが生まれてくることはないかもしれない。

…未来に向けた人類の潜在的生存のスケールを理解することは、計り知れない数字を操るという無為な行為ではない。それは、何が問われているかを理解する上で不可欠だ。実際、今日のわれわれの行動が、何兆人も人類の子孫の生き方に影響を与えるかもしれない。彼らが貧困や豊かさ、戦争や平和、奴隷制や自由に直面するかどうかは、現在の私たちの行動に大きく左右される。

そうした視点の転換が重大な変化をもたらすことは、日本の(岩手県の)小さな町、矢巾町で行われた印象的な実験からも明らかだろう。町の問題について話し合う前に、集会の参加者の半分に法被を着せ、「自分は(2050年の)未来から来た」とイメージさせ、「自分たちの孫の世代」の利益を代弁している」という設定にした。研究者たちは、この実験の結果、考え方や優先順位について集団間で大きな立場の違いが生じることに気づいた。未来の世代を心配する姿勢が支持を集め、合意がまとまった措置の半分以上は「孫の世代」からの提案だった。

つまり、長期的な視野で考えれば、社会はまだまだ多くのことを達成できる。500年前には、所得が数世代ごとに倍増し、ほとんどの人が孫の成長をみるまで長生きし、世界の主要国が自由な選挙で指導者が選ばれる世俗的な社会になるとは想像さえできなかつただろう。(逆に言えば)現状では、人々に永続的と思われている国家という形態も今後数世紀はもたないのかもしれない。世界のさまざまな社会組織の形態は、どれも完全に確立された形で歴史に登場したわけではない。数日、数ヶ月、数年という短期的な視点は、根本的な長期的変化の可能性をみえなくしてしまう。…

令和5年度予算の編成等に関する建議 令和4年11月29日 (抜粋)

## 5. 将来世代への責任

(中略)

政策の立案に当たり、将来世代の視点に立って検討していくべき、という考え方がある。具体的に、将来世代の視点をどのように組み込んでいくかを研究する「フューチャーデザイン」という分野があり、その考え方を取り入れて行政現場で実際に活用することで、現に住民の行動変容を実現した地方公共団体もある。今後、持続可能な財政・社会保障の在り方を考えていく上でも、次の時代を担う若年世代を含めて、フューチャーデザインの考え方を活用した議論に社会各層を広く巻き込み、当事者としての関心を高めていくことが望ましく、こうした取組を具体化していく必要がある。

(後略)